

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-105638

(43)公開日 平成6年(1994)4月19日

(51)IntCl⁵

A01K 97/10

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

Z 9227-2B

審査請求 未請求 請求項の数3(全 5 頁)

(21)出願番号 特願平5-134213

(22)出願日 平成5年(1993)6月4日

(31)優先権主張番号 特願平4-215124

(32)優先日 平4(1992)8月12日

(33)優先権主張国 日本(JP)

(71)出願人 592174981

仙田 元雄

愛知県丹羽郡扶桑町大字斉藤字山尻境2の
1

(72)発明者 仙田 元雄

愛知県丹羽郡扶桑町大字斉藤字山尻境2の
1

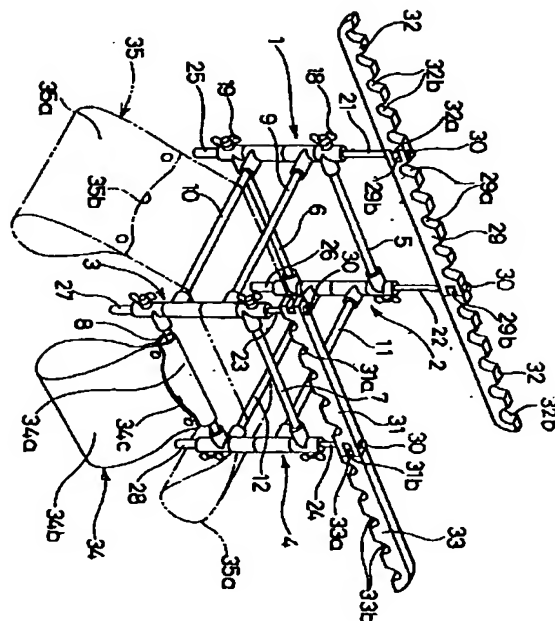
(74)代理人 弁理士 三宅 宏 (外1名)

(54)【発明の名称】 釣竿受け具

(57)【要約】

【目的】 海岸に設置されたテトラポットの足が、海岸線に対して傾斜して突出していても、この足の稜線に沿って釣竿受け具を安定的に据え置きでき、かつ、前後の竿受け29、31を海岸線と平行に置くことができるようにする。更に、釣竿受け具の前倒れを防止し、安定した据え置きができるようにする。

【構成】 2本の前脚1、2と、2本の後脚3、4と、これらの間を回転可能に連結するリンク5～12とによって受け台を構成する。2本の前脚1、2間に前部竿受け29を架設し、2本の後脚3、4間に後部竿受け31を架設する。さらに、後部のリンクに水袋を備える。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 2本の前脚と、2本の後脚と、これらの間を回転可能に連結するリンクとによって受け台を構成し、2本の前脚相互間に前部竿受けを架設し、2本の後脚相互間に後部竿受けを架設したことを特徴とする釣竿受け具。

【請求項2】 2本の後脚間を連結するリンクに、水袋を垂れ備えた請求項1記載の釣竿受け具。

【請求項3】 2本の後脚間を連結するリンクを上下2本とし、その上リンクに水袋を備え、その水袋の底面が下リンクをまたいで設置されるようにした請求項1又は2記載の釣竿受け具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は釣竿受け具に関する。

【0002】

【従来の技術】本出願人は先に消波用コンクリート製ブロック（テトラポット）上或いは岩面上等において釣竿を安定して保持できる釣竿受け具を提案した（実開平1-99167号公報）。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】前記従来構造のものにおいては、例えば、海岸に設置された消波用コンクリート製ブロック（テトラポット）の足部の稜線を跨ぐようにその釣竿受け具を安定的に据え置くと、釣竿がテトラポットの足の突出方向へ向くことになる。

【0004】そのため、テトラポットの足の軸線が海岸線に対して直交していない場合には、釣竿を海岸線に対して直交的に置き難い問題があった。そこで本発明は、釣竿受け具を据え置くテトラポットの足が、海岸線に対して直交していない場合においても、釣竿受け具をテトラポットの足の稜線上に安定して据え置き、かつ釣竿を海岸線に直交的に安定して保持することができる釣竿受け具を提案することを目的とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は前記の課題を解決するために、第1の発明は、2本の前脚と、2本の後脚と、これらの間を回転可能に連結するリンクとによって受け台を構成し、2本の前脚相互間に前部竿受けを架設し、2本の後脚相互間に後部竿受けを架設したことを特徴とするものである。

【0006】また第2の発明は前記2本の後脚間を連結するリンクに、水袋を垂れ備えたものである。第3の発明は、上記2本の後脚間を連結するリンクを上下2本とし、その上リンクに水袋を備え、その水袋の底面が下リンクをまたいで設置されるようにしたものである。

【0007】

【作用】例えば、消波用コンクリート製ブロックであるテトラポットの足（40）の軸線（A）が、図3に示すように、海岸線（B）にほぼ直交している場合は、各リ

ンク（5）～（12）を図1及び図3に示すように方形状に配置し、テトラポットの足（40）の稜線を跨ぐようにして据え置く。これにより、釣竿受け具が安定して据え置かれると共に、前後の竿受け（29）（31）が海岸線（B）に平行し、釣竿（41）を、図3に示すように沖へ向って掛けて保持できる。

【0008】また、テトラポットの足（40）の軸線（A）が図4に示すように海岸線（B）に対して傾斜している場合には、各リンク（5）～（12）を、全体として図4のように菱形になるように変形させ、テトラポットの足（40）の稜線を跨ぐように据え置く。これにより、釣竿受け具が安定して据え置かれると共に、前後の竿受け（29）、（31）が海岸線（B）に平行し、釣竿（41）を図4に示すように沖へ向って掛け保持できる。

【0009】また、後脚（3）、（4）間のリンク（7）又は（8）に備えた水袋（34）の重みにより、釣竿受け具の前倒れが防止される。また、テトラポットの足（40）上に置く場合には、水袋35を図1又は図5のように掛ければ、その水袋部35a、35aがテトラポットの足（40）の両側面に垂れ下がり、釣竿受け具が安定する。

【0010】また、平地において本釣竿受け具を使用する場合は、上記の水袋35を使用する必要はなく、リンク7又は8に備えられた後部の水袋34のみで釣竿受け具は安定する。

【0011】

【実施例】図1乃至図4に示す本発明の第1実施例について説明する。1、2は一对の前脚、3、4は一对の後脚である。

【0012】一对の前脚1、2相互は前側の上下のリンク5、6で回転可能に連結され、一对の後脚3、4は後側の上下のリンク7、8で回転可能に連結されている。また、左側の前後の脚1と3は左側の上下のリンク9、10で、右側の前後の脚2、4は右側の上下のリンク11、12で回転可能に連結されている。

【0013】各脚1、2、3、4は同一構造であるため、前脚1についてその構造を図2により説明する。13はパイプからなる芯軸で、その外周に上から、前側の上リンク5の取付管14、左側の上リンク9の取付管15、左側の下リンク10の取付管16、前側の下リンク6の取付管17が、この順序で嵌合されている。

【0014】そして、取付管14はねじ18により、また、取付管17はねじ19により夫々芯軸13に一体的に備えられ、取付管15と16は芯軸13に回転可能に遊嵌されている。

【0015】各取付管14、15、16、17に嵌装したリンク5、9、10、6は夫々ねじ20で固着されている。このように構成することにより、各リンク5～12が、各脚1～4を回転軸として回転できる受け台が構

成される。

【0016】21は前脚1の芯軸13の上部内に昇降可能に備えた第1の延長杆で、これを所望の位置に昇降調節して前記ねじ18の締め付けによりその位置を固定するようになっている。

【0017】22は前脚2に備えた第2の延長杆、23は後脚3に備えた第3の延長杆、24は後脚4に備えた第4の延長管で、これらは前記第1の延長杆21と同様に昇降可能に備えられている。

【0018】25は前脚1の芯軸13の下部内に昇降可能に備えた第1延長脚で、これを所望の位置に昇降調節してねじ19の締め付けによりその位置を固定するようになっている。

【0019】26は前脚2に備えた第2延長脚、27は後脚3に備えた第3延長脚、28は後脚4に備えた第4延長脚で、これらは前記第1延長脚25と同様に昇降可能に備えられている。

【0020】29は前部竿受けで、その両側部を前記第1延長杆21と第2延長杆22の上部に挿通し、ナット30により固定されており、その上面には竿受凹部29aが形成されている。

【0021】31は後部竿受けで、その両側部を前記第3延長杆23と第2延長杆24の上部に挿通し、ナット30により固定されており、その下面には竿受凹部31aが形成されている。

【0022】更に、前部竿受け29、及び後部竿受け31の夫々の両端には凹部29b、31bが形成されている。32は延長用前部竿受けで、その一端に凸部32aが形成され、該凸部32aを前記前部竿受け29の凹部29bに嵌合し、該凸部32aに延長杆21を通して備えられている。尚、該延長用前部竿受け32は、ナット30を外すことにより、前部竿受け29と共に分離できるようになっている。

【0023】33は延長用後部竿受けで、その一端に凸部33aが形成され、該凸部33aを前記後部竿受け31の凹部31bに嵌合し、該凸部33aに延長杆24を通して備えられている。尚、この延長用後部竿受け33も同様に分離できるようになっている。

【0024】32b、33bは竿受凹部である。34は後脚の下リンク8に付設した水袋で、上部34aを下リンク8に巻き固着し、下部に水袋部34bを垂らして備えられている。水は、出入口34cから水袋部34b内に注入したり、出したりするようになっている。

【0025】35は帯状でその両側に水袋部35a、35aを形成した水袋で、左右の下リンク10、12の上部を通して図示のように掛け、竿受け具を安定させるものである。35bは水袋部35aへの水の出入れ口である。

【0026】次に使用状態について説明する。図3に示すように、テトラボットの足部40の軸線Aが海岸線B

に対してほぼ直交して、釣竿41の出したい方向に向いている場合には、各リンク5～8を図1及び図3に示すように方形に配置し、各脚1～4を、テトラボットの足40の稜線を跨ぐように据え置く。

【0027】これにより、前部竿受け29と32及び後部竿受け31と33は、海岸線Bと平行し、かつ、夫々竿受け29と31の中央がテトラボット40の軸線A上に位置する。そのため、釣竿41を沖に向って出し、その状態を保持できる。

【0028】また、水袋34の水袋部34b内に現地において水を入れ、更に必要に応じて水袋35を図示のように掛けてその水袋部35a、35a内に水を現地において入れ、釣竿受け具を安定させる。

【0029】後部の水袋34は、釣竿によって釣竿受け具が前倒れするのを防止し、水袋35は、釣竿受け具の前倒れを更に防止すると共に左右の安定性を良くする。また、水袋であるため、据え置き面に凹凸、傾斜等があっても、その面になじんで良好に設置できる。

【0030】次に、図4に示すように、テトラボットの足部40の軸線Aが海岸線Bに対してかなり傾いている場合には、脚1と4を内方へ押して図4に示すように、左右のリンク9～12がテトラボットの足40の軸線Aと平行し、かつ前後の竿受け29、31、32、33が海岸線Bと平行するように、全体として菱形になるように変形する。

【0031】そして、各脚1～4を、テトラボットの足40の稜線を跨ぐように据え置く。これにより、図4に示すように、釣竿41を沖に向って出し、その状態を保持することができる。

【0032】尚、延長用前部竿受け32或いは延長用後部竿受け33を図示のように連結すれば、複数本の釣竿を放射状に沖に向って配置することができる。また、第1～第4の延長杆21～24の昇降量を調整することにより、据え置き面に凹凸、傾斜があっても釣竿受け具を安定状態に据え置きできる。

【0033】尚、実施例においては、テトラボットに据え置く場合について説明したが、その他、突堤、岩場等において使用できることは勿論である。また、平地において本釣竿受け具を使用する場合は、上記の水袋35を使用する必要はなく、リンク7又は8に備えられた後部の水袋34のみで釣竿受け具は安定する。

【0034】図5は本発明の第2実施例を示す。

【0035】本実施例は、上記実施例における後部側の水袋34を後側の上リンク7に備えたものである。すなわち、水袋34を、その上部34aに形成した通し穴を後側の上リンク7に挿通して備え、使用時に水の出入口34cから水袋部34b内に水を注入し、その膨んだ水袋部34bの底面を後側の下リンク8にまたがせるようにしたものである。

【0036】このように水袋34を設置することによ

5

り、上記実施例の水袋34に比べて、竿受け具の後部がより一層安定し、竿をより安定した状態で保持することができる。

【0037】また、水袋35は、左右の上リンク9、11の上部を通してその左右の水袋部35a、35bを竿受け具の左右に垂している。本実施例においても、テトラポットの足上に置く場合は両水袋34、35を上記のように使用し、平地に置く場合は水袋35を使用する必要はなく後部の水袋34のみ使用してもよいことは同様である。

【0038】

【発明の効果】以上のように本発明の釣竿受け具においては、海岸に設置されたテトラポットの足の突出方向が、海岸線に対して傾斜していても、そのテトラポットの稜線上に安定して据え置くことができると共に前後の竿受けを海岸線に平行に置くことができ、釣竿を沖に向けて掛け保持できる。

【0039】更に、後部のリンクに水袋を備えたので、

6

釣竿の重み等によって、釣竿受け具が前倒れすることを防止でき、安定した竿受けができる。更に、水袋を上リンクに備え、その水袋の底面が下リンクをまたぐようにすることにより、より一層釣竿受け具の前倒れを防止し、より一層安定した竿受けができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の第1実施例を示す斜視図。

【図2】 脚とリンクの連結構造を示す断面図。

【図3】 使用状態を示す平面図。

10 【図4】 変形した使用状態を示す平面図。

【図5】 本発明の第2実施例を示す斜視図。

【符号の説明】

1、2 前脚

3、4 後脚

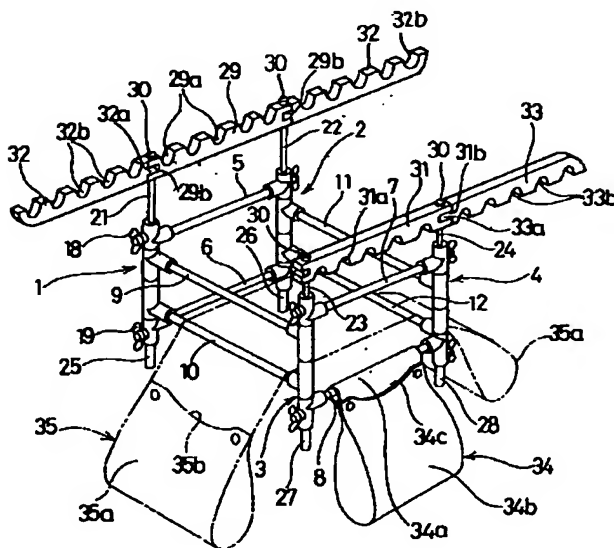
5～12 リンク

29 前部竿受け

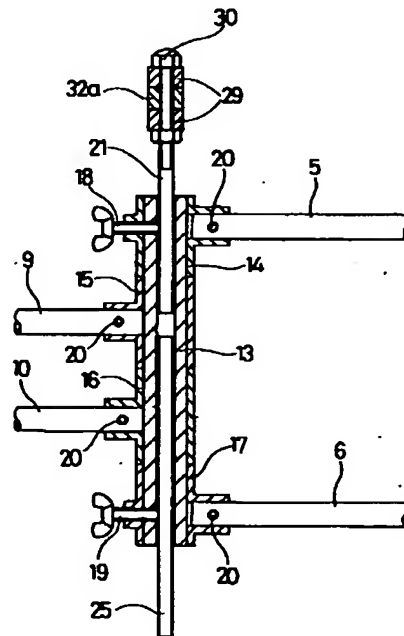
31 後部竿受け

34 水袋

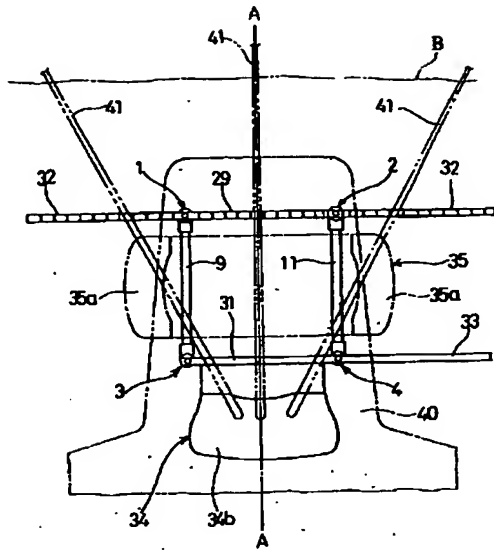
【図1】



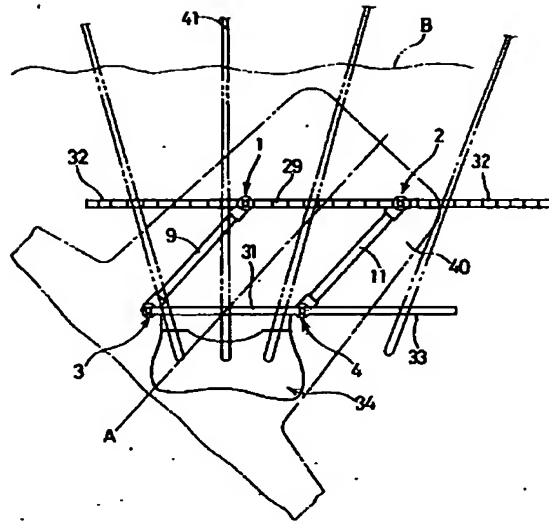
【図2】



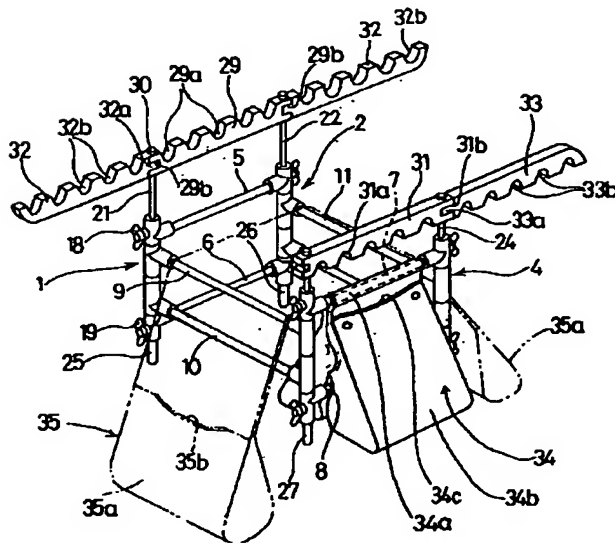
【図3】



【図4】



【図5】



PAT-NO: JP406105638A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06105638 A
TITLE: FISHING ROD HOLDER
PUBN-DATE: April 19, 1994

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
SENDA, MOTOO

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
SENDA MOTOO N/A

APPL-NO: JP05134213
APPL-DATE: June 4, 1993

INT-CL (IPC): A01K097/10
US-CL-CURRENT: 43/21.2

ABSTRACT:

PURPOSE: To enable stable setting by designing a fishing rod holder so as to be stably set along the edge line of a foot of a tetrapod set to the seashore, to be able to arrange the front and rear rod holder units in parallel to the shore line and to be prevented from fall down forward even when the foot of the tetrapod is projected in an inclined state toward the shore line.

CONSTITUTION: A holder base is composed of two front legs 1 and 2, two rear legs 3 and 4 and links 5 to 12 mutually and rotatably connecting them. This holder base is equipped with a front rod holder unit 29 between the two front legs 1 and 2, with a rear rod holder unit 31 between the two rear legs 3 and 4

and with a water bag at the rear link.

COPYRIGHT: (C) 1994, JPO&Japio